

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103705		
法人名	有限会社ウインドワード		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	岐阜市梅林南町12番地メゾンK1F		
自己評価作成日	令和3年7月26日	評価結果市町村受理日	令和3年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170103705-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年9月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設の前が梅林公園で、利用者の方が散歩に行くのにも疲れない距離です。四季の移り変わりも肌で感じる事ができ周囲の環境もとても良いです。又職員も定着しており落ち着いています。職員の資格取得者も増えレベルアップ出来るよう日々取り組んでいる。どのような状況の利用者の方が入所されても対応できる技術を持っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念である「老いを笑うな いずれ私も通る道」を玄関に掲げている。ホームは、開設当初の運営方針を継続しながら、入居者の定員を7名とし、家庭的な環境の中で、職員と共に共同生活を送れるよう支援している。毎日の食事も、三食とも職員が作り、皆で食卓を囲んで会話をしながら食べている。管理者をはじめ、職員は利用者の娘や息子、孫のような存在となり、利用者が毎日を安心して過ごせるよう支えている。管理者は、職員の資格取得を奨励し、看取り研修でレベルアップを図り、全職員が不安なく終末期の支援が出来るよう取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「老いを笑うないずれ私も通る道」の気持ちを忘れないように玄関に掲げてある。全職員と共有し理念を実践出来ていると感じている。	事業所前の梅林公園で日々散歩しており、近隣住民にも事業所の存在が知られている。理念である「老いを笑うな、いずれ私も通る道」を掲げ、職員の目に付き易い場所に掲示している。職員は、理念を常に意識し、支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を持てるよう、自治会に入会し、自治会の行事に利用者の方の状態に合わせながら参加。利用者の方が無理な場合は職員だけでも可能な限り参加するよう心掛けている。	自治会に加入し、地域の行事や活動には、可能な限り参加をしている。周辺の清掃活動も地域住民と共に行い、お互い様の関係を継続している。認知症があっても、楽しく生活できることを示せるよう、地域との交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ感染予防の為控えているが、日中ホームの方と過ごして頂けるよう小規模デイを開設し包括、民生委員の方に呼びかけ協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の方の個々の状況やケア方法を説明させて頂きながらサービスの向上に活かしている。	運営状況について、地域の関心も高い。現在は感染予防の為、運営推進会議の開催はできないが、文書にて報告を行い、運営推進会議の構成メンバーに送付している。質問や意見等の返信を依頼し、それらの意見を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時に相談させて頂いたり状況によっては電話などで相談させて頂いている。	日頃から、行政と連携を図りながら、利用者サービスの向上につなげている。担当者から、新型コロナウイルスについての最新情報や介護保険の動向など、様々な情報を得たり、困難事例を相談し助言を得ている。事業所からは、利用者状況を報告し、意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、全職員が理解している。夜間は防犯上の事もある為施錠しているが昼夜問わず玄関には人の出入りが分かるようセンサーを付けている。昼間は施錠していない為面会時インターホンを押さなくても家に入るよう出入りが出来る。定期的に身体拘束適正化委員会を開催している。	身体拘束適正化委員会を定期的開催し、職員も参加できる工夫をしている。日頃から、虐待と不適切なケアについても話題にし、職員間で共有している。拘束が必要となる利用者を作らないよう、目配りと気配りで利用者を理解し、寄り添うケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者、全職員が常に心掛けている。言葉使い、対応の仕方、身体に触れる時など特に注意するようにしている。会議でも虐待防止について定期的に話し合っている。		

岐阜県 グループホームひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者。一部の職員は理解している。成年後見人は利用している方もみえ今後も必要であれば相談にのれる準備もできてる。職員に対してもまなでる機会を増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項に添って説明を行い質問等を受けながら理解を得ている。又改正の際は電話で説明(面会時に説明)させて頂き文章を郵送、来訪時に再度説明を行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用所の方の意見、要望は日常会話から拾えるよう心掛けている。又家族の方に関しては来訪時やメールなどで要望、苦情、意見を聞くようにしている。玄関に相談箱の設置もしている。外部への相談窓口の連絡先を重要事項説明書に記載し表せる機会を設けている。	感染予防対策の為、家族とはメールやLINEのビデオ通話等も活用し、連絡を取り合っている。利用者の状況を写真で報告したり、ビニールカーテンで感染対策をした上で、玄関先での対面を実施し、要望も聞いている。また、窓越しに本人の元気な笑い声を聴いて、安心して帰る家族もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一度、会議を開催し、サービスの在り方について議論すると共に職員の個々の気持ちを聞くようにしている。話はずらい事などは個人的に話を聞く機会を設けている。又半年に1回面談を行い反映に繋がるように努めている。	管理者も日々、職員と共に介護業務に携わっている。利用者への対応やケア方法について、納得するまで話し合いながら、職員の思いや要望を把握している。職員もまた、管理者を信頼し、共に働きやすい環境づくりに努めており、定着率も高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は同一人物であり、日々現場と一緒に仕事をしている為把握している。全職員が働きやすい職場であるように日々考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修希望の職員には、それに必要とする費用を事業所が負担している。又個々の状況に応じレベルアップ出来るよう研修の受講を進める事も有る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に交流はないが、相談できる相手はいる。今後も他のホームと交流が持てるよう努力を続けていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の段階で、趣味、嗜好シート、フェースシートの記入をお願いすると共に本人さんや家族さんとの面談を行い困っている事、不安な事、要望などを聞きながら良い関係づくりを心掛ける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限り、家族の方の状況を把握すると共に不安、困っている事、要望に耳を傾け、家族の方と一緒に利用者の方を支えて行けるよに、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、相談員の方の話しを元に、管理者、ケアマネと話し合いあらゆる方向性を考え家族の方、相談員と再度話をさせて頂きながら、より良い選択が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	第二の我が家と職員が思ってくれるよう出勤時「ただいま」帰宅時「いらっしゃい」を日常から使っている。今では定着し利用者の方のため「行ってらっしゃい」「おかえり」と声を掛けて下さり、良い関係づくりが出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の面会時、本人さんの状態説明を行い、それを元に要望、考え、不安に思っている事に耳を傾け色々な選択の中から、より良い方向性を考えながら行っている。遠方の家族の方には電話や手紙を使用しながら相談を重ねている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々に差はあるが、友人、知人と外出する方もみえる。ホームとしては馴染みの方との交流出来る限り継続できるよう支援していきたい。	感染対策を徹底した上で、玄関先で家族との面会を実施している。また、人が少ない時間を見つけ、梅林公園を散歩し、馴染みの人と会釈程度の挨拶を交わしている。利用者の友人が散歩のついでに立ち寄ってくれることもあるが、収束後の来訪を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々リビングで、利用者の方達は一緒に過ごしている。もめ事も多々あるが職員が間に入るなどし良い関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りの方が多く家族の方の心のケアを大切にしている。退所される利用者の方が今後みえたら関係を断ち切るのではなく相談に応じれるよう努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が可能であれば日常生活の中で本人さんとコミュニケーションを取りながら本人の希望に添った暮らしが出来るよう努め、困難な場合は、表情、仕草などを見ながら希望、意向に努める場合によっては家族の方に相談を行う	職員は、老いを負と捉えないことを常に意識して利用者に寄り添い、利用者が安心して思いや意向を発信できるよう雰囲気づくりに努めている。表情や動作などからも推測し、時間をかけて把握している。利用者の望みを実現できるよう、家族の協力を得る場合もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人、家族、相談員の方に。生活歴、生活環境などを聞き今までの生活とあまり変化の無い暮らしが出来るよう現状把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの毎日の状況を記録に細かく残し日々の状態の移り変わりをみている。それぞれの生活の中で出来る事をお願いするなどし、その日の状態に合わせた過ごし方をして頂き現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1度の会議で職員、ケアマネと話し合いを行い、話し合いの結果を家族の方に伝え意見アイデアを聞き相談させて頂きながらケア計画に活かしている。	介護記録や職員の意見、医師の意見などから利用者の状況を把握し、検討しながら介護計画を作成している。家族に計画内容を伝えて意見交換を行い、遠方の家族には電話やLINEアプリを活用し、希望も聞いている。	コロナ禍の中では難しいが、収束後には、日程調整を行い、家族に利用者の暮らしぶりや実際の支援状況を見てもらいながら、家族参加でのサービス担当者会議開催、計画作りに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の記録を出来る限り細かく残している。それを全職員が把握し対応出来るようにしている。記録や職員が感じた事を元に話し合いを行い実践に活かすと共に計画の見直しにも活かしている。記録に関しては家族の方に限りみれる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の方の状況によっては入居前に居室の移動があるかもしれない事を伝え、利用者の状況に応じ職員が一番目が届く居室への移動を行い、常に状況把握し柔軟な対応が出来るよう心掛けている。		

岐阜県 グループホームひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの方や民生委員の方達との交流はあるが、他の地域資源の活用は出来ていない。地域のイベントなどは出来る限り参加してる。秋葉さんのお参りや消防訓練など。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば可能。但し家族の方の協力が不可欠。施設としては契約医院が有り、昼夜問わず安心して医療を受ける事が出来る。状態によっては整形外科、歯科の往診もしてもらえる。	契約時に、かかりつけ医について事業所の方針を説明し、全員が協力医を選択して定期的に往診を受けている。希望があれば、歯科や整形外科についても往診を受けることが可能である。訪問看護とも連携しながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問介護の方が来て職員の気づき利用者の1人ひとりの状態を伝え相談しアドバイスを受けている。利用者の方の状態によっては常に連絡をとり指示をもらいながら利用者の方が適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合、入院先に利用者の方の今までの状況の説明をすると共に入院中は面会、病院での経過を聞き、退院時受け入れが可能か相談を重ね、可能な場合は、退院後も病院との関係を築きながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行い、本人、家族の方の思いを聞くと共に、重度化、終末期を向かえた場合には、本人、家族、主治医、職員と話し合いながら、より良い支援が出来るよう努めている。	入居時に、重度化や終末期についての指針を説明し、家族も理解している。利用者の状態に変化があった場合、早い段階で、医療関係者と職員、家族で話し合っている。職員は、研修を積み重ねて「看取り」を学び、本人と家族にとって、より良い終末期となるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月1度の会議時、急変、事故発生時の手当て、対応について指導し連絡体制も整えている。今後も実践に活かして行けるよう訓練を重ねていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は勿論、他の災害に備え定期的に避難所の確認、緊急時の対応方法の確認、訓練を行っている。又職員個々にシュミレーションをしようお願いしている。近所の方の参加は難しいが何かの時には手を貸した頂けるようお願いしてある。	夜間想定を含め、年2回の災害訓練を行っている。詳細な計画を立て、全職員で取り組んでいる。地域の防災訓練にも参加しており、近隣の協力体制も整っている。災害時用の保存食を試食し、利用者に適切かどうかを検討しながら、備蓄品を揃えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を把握し、その方に合った対応を心掛けている。トイレやオムツ交換の際、周りに分からないよう配慮し誘導している。(本人が訴えた場合は別)名前の呼び方なども本人さんの希望に合わせ呼んでいる。	常に利用者一人ひとりの尊厳とプライバシーを守り、声かけや対応を行っている。契約時には、本人が望む名前の呼び方を聞き、対応している。居室や浴室の脱衣室の排泄用品の棚には扉を付け、人目につかないよう工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をするにも、本人さんの希望、要望を聞き無理時するのではなく自分で選択して頂くようにし自分らしく生活できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴の時間は決まっているが、「お風呂に入りたくない」と言われるりようしゃの方には時間をおき再度声掛け、それでも嫌がられる方は次の日にするなど出来る限り利用者の方の希望に添った生活が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り行っている。季節に合わない服を着て見える時は、職員と一緒に選り着替えて頂いている。髪型も本人さんの希望に合わせ切りたいときに散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在食事作りをしている方はいない。現在はおやつと一緒に作ったり、食器拭き、テーブルを拭いたりの作業を行ってくださる。	食材は近隣の店で調達し、3食とも職員の手作りで提供している。コロナ禍ではあるが、感染対策をしながら、出来る範囲で利用者もテーブル拭きなどを手伝っている。家庭的な雰囲気中で、職員と利用者がテーブルを囲んで食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録は勿論利用者の方の体調に応じ、水分量のチェックを行う。食事は、常食、刻み食 ミキサー食、水分トロミ使用など、利用者の状態に合わせ摂取出来るよう配慮している。1日2回食事とは別に水分補給を行っていた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕、自分の歯、義歯、歯がない方、利用者の状態に応じて職員見守り介助の元口腔ケア、全体のチェックを行っていた。状態によっては毎食後口腔ケアを行う方もみえる。		

岐阜県 グループホームひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターン身体の状態を把握し、その方に合った支援を行っている。排泄の感覚が長い方、失禁の多い方には声掛けし失禁を減らせるよう対応。夜間など排泄が近い方、身体の状態に合わせポータブルを使用するなど自立に向けた支援をしている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けと誘導で、トイレでの排泄が習慣になるよう支援している。夜間は安全面に配慮し、ポータブルトイレを使用する利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物、散歩は勿論、体操等の運動を行いながら、利用者の方の状態に応じ予防に取り組んでいる。それでも困難な場合は主治医に相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽に入るのが困難な方はシャワー浴で対応、それでも困難な場合は清拭、部分浴などで対応。入浴拒否の方も多々見えるが時間を置きもう一度声掛けを行う又日を改めるなど出来る限り希望に添えるようにしている。	毎日でも入浴できるよう準備し、利用者の希望を聞きながら支援している。また、普段、会話の少ない利用者が入浴を楽しめるよう、職員はコミュニケーションを図り、気持ちよく安全な入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のその日の体調に合わせ居室のベッドで休んで頂くなどの対応をしている。居室の温度、湿度調整を行い気持ちよく睡眠して頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の説明を聞き職員内で共有したうえで服薬の見守り、介助をおこなっている。状態に変化が見られて時はすぐに主治医に相談をおこなう。		
48	※	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除、洗濯たたみ、食器拭きなど出来る範囲で行っている。塗り絵、手の運動、散歩、雑誌、新聞を読まれる方など1人ひとりに合った気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園の散歩、バーベキュー流しそうめん、秋涼みや外食、花火大会、地域のイベントの参加などの支援を行っている。外食は自前に何が食べたいか聞き、それに沿って計画を立てている。	感染対策のため、様々な行動制限があるが、できる限り利用者が孤独にならず、笑顔で過ごせるよう、時間をかけて話を聞いたり、ゲームなどを行っている。また、人が少ない時間帯を見計らい、梅林公園の散歩を楽しんでいる。毎年、花火大会の日には、柳ヶ瀬まで出かけていたが、今は、収束後の楽しみとしている。	

岐阜県 グループホームひなたぼっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状は所持していない。しまった場所が分からない、捕った捕られたとパニックになられる方、ご家族の希望も有り所持していないが、外出時は利用者の方ご家族の方に相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援する用意はある。テレビ電話をしたりしている。身体的に無理な方は動画を送ったり、写真を送ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾りを飾ったり、庭に野菜や花を植えたりし季節を感じ取れるよう配慮している。又居心地よく過ごす為に湿度、温度、光、音、臭気、清潔等に気を付けている。	昼間は、ほとんどの利用者が自分の部屋でなく、共用空間のリビングや居間、畳の部屋等、好きな場所で寛いでいる。季節毎の手作り作品や花を飾り、感染対策に努めながら清潔な環境作りを心がけ、利用者が安心して過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる方がほとんどだが、居間にもソファ、テレビを置き、利用者の方が自由に過ごせるように配慮している。毎日の新聞や雑誌も自由に読めるよう配置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族の方と相談のうえ、出来る限り新しいものではなく、これまで馴染みのある物を持参して頂き、少しでも今までの生活と大きな変化が無いよう配慮している。	利用者が自分の部屋を認識しやすいよう、入り口に折り紙の目印がある。また、居室内を安全に動けるよう、ベッドや整理タンスの配置も考慮しながら、思い出の写真や小物を並べ、落ち着いて暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂場やトイレには、解り易いように目印をつけ施設の廊下には、リビング、キッチンと一直線になっている為、利用者の方は職員の存在が解り易く職員も利用者の方の行動が見やすく安心である。		